

様式第2号

平成26年度 安曇野市地域包括支援センター運営協議会(第1回) 会議概要

1	審議会名	平成26年度 第1回地域包括支援センター運営協議会
2	日時	平成26年5月30日(金) 13時00分から15時まで
3	会場	穂高健康支援センター 集団指導室
4	出席者	宮澤会長、勝山副会長、中村委員、高山(眞)委員、高山(桂)委員、左々木委員、高橋委員、堀内委員、丸山(良)委員、丸山(浩)委員、黒澤委員、増田委員、山田委員 (欠席者:樋口委員、奥永委員)
5	市側出席者	宮下保健医療部長、場々介護保険課長、西澤介護保険担当係長、木村介護保険担当係長、丸山認定調査係長、古畑介護予防係長、介護予防係 酒井保健師、細萱主事、介護保険担当 山崎主事 東部地域包括支援センター 藤澤(芳)主任・藤澤(宏)保健師・宮入社会福祉士・平林保健師、南部地域包括支援センター 山岸看護師・岡村社会福祉士・丸山主任、北部地域包括支援センター 渡邊主任・曾根原看護師・佐藤社会福祉士
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者 0人
8	会議概要作成年月日	平成26年6月11日
協 議 事 項 等		
I	会議の概要	
	1. 開会	
	2. 部長あいさつ	
	3. 会長あいさつ	
	4. 新任委員の紹介	
	5. 協議	
		(1) 平成25年度地域包括支援センター事業報告について (2) 平成26年度地域包括支援センターの運営及び事業(案)について (3) 平成26年度予防給付ケアマネジメント業務委託先事業所の承認(案)について (4) 南部地域包括支援センターの業務委託の方針(案)について
	6. その他	
		(1) 地域包括支援センター等の基準条例の制定について (2) 地域包括ケア体制について
	7. 閉会	
II	協議内容	
	5. 協議	
	(1) 平成25年度地域包括支援センター事業報告について	各委員: 質疑応答なし。(承認)
	(2) 平成26年度地域包括支援センターの運営及び事業(案)について	中村委員: 安曇野市全体の地域づくりと包括がどのように連携し、地域づくりを進めて行こうと考えているのか。職員体制が変わらない中で新たな業務が加わるが、それにどう対応して行こうと考えているのか、方向性について説明いただきたい。 事務局: 包括においては、モデル的に地区に入っていく場合と個別事例を通しての地域づくりとの2本立てになると考えている。 中村委員: 地域づくりを考えた場合、包括は1つの歯車になりうるが、全体には決して成りえない。第6期介護保険事業計画、平成27年度予算にも大きな影響を及ぼしてくる内容になる。次年度に向けての取り組みを今からお願いしたい。 事務局: 平成27年度の体制づくりについては、平成27年度の法改正をみながら予算的な面、人員的

な面について考えて行きたい。現在、情報・資料を取り寄せている段階である。

各委員：(承認)

(3) 平成26年度予防給付ケアマネジメント業務委託先事業所の承認(案)について

事務局：ミールズケアプランセンター(所在地：大阪府大阪市)への委託について。

各委員：質疑応答なし。(承認)

(4) 南部地域包括支援センターの業務委託の方針(案)について

中村委員：委託というのは業務を委託するということを決めるのか、または社会福祉協議会に委託するという事か。

事務局：「業務を委託する」という形式について審議いただきたい。

各委員：(承認)

6. その他

(1) 地域包括支援センター等の基準条例の制定について

会長：条例制定の参酌すべき基準、安曇野市の独自基準として記録保存について現行案2年間保存を5年にしたいということだが、いかがか。

各委員：(承認)

(2) 地域包括ケア体制について

中村委員：個別会議に関して「住み慣れた地域において」となっており、中学校区を目安とされている。各包括が中学校区単位でない中で、個別会議をどのように開催して行くのか。

事務局：各包括は3つしかないが、83区に担当者がいる。基本的には区単位になるが、区の中のさらに小さな行政区単位を考えながら進めて行くことになる

会長：中学校単位でなくても、共通の話題がある。個別会議を積み重ね、症例がどうなって行ったのか検討すれば良いのではないか。地域包括ケアシステムの説明についてプロジェクターなど利用し、図を示しながら説明いただければ、より分かりやすいと思われる。

各委員：(承認)

会長：北部包括の発表の中に交通の便がなく・・・、と言った説明があった。その点について具体的にお聞かせいただきたい。

北部包括：別荘地で交通手段に悩まれている方が沢山いる現状があると感じている。

会長：デマンド交通について、定期路線があったら良いのではないかと考えている。

増田委員：定期路線は2本あり、通勤通学の時間帯、会社員や学生が利用している。高齢者にとっては希望する時間に来てもらう方法が一番良いと感じている。デマンドについては、道が細く自宅までバスが入って行かれない、障がい者の方が自宅から乗る場所まで出てくるにはどうするか、と言った課題がある。

勝山副会長：デイサービスの送迎車を日中の空いている時間帯に利用する方法があるそうだ。

増田委員：陸運局との兼ね合いがあり、デイサービスの車を使うのは難しい。上手くすり合わせが出来れば良いが。

勝山委員：介護保険まで行かないが、足が弱くなった、周囲に若い人がいない、といった人達をどう救って行くか、これこそ地域の課題かと思う。

会長：通所サービスの送迎をデマンドのような別の形で担ってもらえれば、介護保険の料金を今より安くできるのではないか。市の独自事業になった際、今よりも安く実施して行かれるのではないか。

中村委員：公民館に集まるような「サロン」をイメージしがちだが、「足」の問題がでてくるため、

隣近所のお茶飲み会のようなものの復活を目指すのが、1つのあるべき姿ではないか。

山田委員：老人クラブでもそこが一番難しいと感じている。近くで開催すると言っても、そこへ出かけられない。クラブとして催しを行う際、クラブ員が声を掛け合って相乗りしてもらい、というやり方しかないが、あまり勧めると「白タク」と言われてしまう。デイサービスの送迎車を利用する方法は、まだどこも出来ていない。相乗りして行く、という方法が一番やりやすいと感じている。

増田委員：福祉員制度が市全体に広がっている。隣組長が福祉員となり、各家庭の問題ごと等を民生委員や区長へ上げる仕組みになっている。井戸端会議なら軽いノリで話しが出来ても、改まって相談はしにくい方が多いのが現状である。身近な福祉員制度で隣組の絆を強固にし、お互い助け合って行かれるよう、啓発・普及ができると良いと感じている。

山田委員：だいたい隣組長が福祉員になるが、年齢が若く日中家にいないため采配するわけにいかない。なかなか福祉員が出てこない状況にあるため、それに代わるものをどうするかが一番の課題となっている。

勝山副会長：新規の移住者の問題があるということだが、常会に入らない人が増えていると聞いている。この問題を取り上げて行かないと、地域が崩壊して行ってしまうのではないか。

山田委員：転入者に対し市が常会へ必ず入るようにとは言えないようである。転入時から「入らない」と言うらしい。

丸山（良）委員：定年後、外に出ない方が多くなっている。認知症予備軍が増えないようフォローが必要。認知症発症までに10年ほどかかると言われている。行政・医療・福祉がどのように関わって行くのか、市としての考えを説明いただきたい。

事務局：認知面の気になる方に気がついた方が、何らかの形で包括へご相談いただき早期発見に繋がるような形にして行きたい。地域と包括が近くなり、早期発見して行くことが大切になると感じている。ファイブ・コグ検査について、平成25年度は8グループ、150名に実施した。グループとして検査を受けることで、グループとして認知機能を高める教室にしたいというねらいがある。

増田委員：一番大切なことは情報提供ではないか。地域から包括へ情報を発信して行くことが大きな課題と感じている。

山田委員：75歳から認知症の方が増える。60歳代から活動しないと効果がない。60歳代から高齢者クラブに入会していただけるようになると、ありがたい。

勝山副会長：いろいろな意見が出て活発な会議となった。今後もお願いしたい。

(第1回地域包括支援センター運営協議会閉会)